

平成 2 8 年 6 月 1 7 日

第 6 回 愛西市立小中学校適正規模等検討協議会
会議録

第6回愛西市立小中学校適正規模等検討協議会 会議録

開会日時 平成28年6月17日（金） 午前10時00分
閉会日時 平成28年6月17日（金） 午前11時40分
場 所 愛西市役所 北館3階 災害対策本部兼会議室1・2

■ 出席委員

会長	伊藤 勝康
副会長	伊藤 正憲
副会長	千賀 浩司
委員	水谷 朋和
委員	原田 大栄
委員	森 智恵美
委員	山田 昭彦
委員	田中 智治
委員	宇野 明美
委員	中野 義治
委員	水谷 瀧男
委員	伊藤 尚美
委員	佐藤 有見子
委員	三輪 義治
委員	渡邊 佳子
委員	猪飼 常雄
委員	五島 直和
委員	中田 貴士

■ 欠席委員 なし

■ 事務局

教育長	加藤 良邦
教育部次長	神田 直也
学校教育課長	田中 亮長
学校教育課課長補佐	森田 圭一
学校教育課主事	伊藤 公亮

■ 傍聴者 1名

■ 次第

1. 開会

2. あいさつ

3. 議題

(1) 適正化に向けた具体的な方策

(2) 基本計画（素案）の骨子及び概要

(3) 協議会の今後の取り組み

(4) 次回（第7回）協議会開催について

(5) その他、意見交換

4. 閉 会

【事務局】	ただいまから第6回愛西市立小中学校適正規模等検討協議会を始めます。 本日の欠席委員はございません。また、傍聴者1人いらっしゃいますので報告させていただきます。 はじめに会長の伊藤勝康様より挨拶をいただきます。
【会長】	(会長挨拶)
【事務局】	ありがとうございました。 次に、「3. 議題」でございます。ここからの議事進行は、伊藤会長にお願いします。
【会長】	では、次第に基づきまして議事を進行していきます。 なお、本日の議事録署名者は、佐藤有見子様と渡邊佳子様をお願いしたいと思いますので、よろしくお願いします。 事前資料として、「愛西市立小中学校適正規模等基本計画（素案）」と事務局にお願いしていたアンケート結果をお配りしていると思います。まず、事務局よりアンケート結果の概要について説明をお願いします。
【事務局】	(アンケート結果説明)
【会長】	それでは、今の説明も参考にしながら議論を進めていきたいと思います。 まず、(1)適正化に向けた具体的な方策についてです。この問題を解決する要素を確認しておきます。1つ目は教育効果を高めるために質的・物的・人的環境づくりを考えなければならないこと。2つ目は地域で子どもを育てる観点から、地域の伝統文化や地域の方々の意見を尊重すること。3つ目は国・県・市の教育施策や制度の動向を注視すること。加えて市の財政状況を勘案すること。その他たくさんの条件や視点がありますが、この要素に配慮しながらご意見をいただければと思います。 議題(1)①適正規模について、②適正配置については関連が深いため、提案させていただいた3案を関連付けて説明いたします。 (1案)(2案)(3案)について説明。 この他の案についてもアンケート等で上がっているかと思いますが、前回の議論でもありましたが、地域コミュニティの存続や学区の再編の観点から賛同が得にくいため、まずはこの3案を叩き台としていただきたいと思います。 ご意見はありますか。

【委員】	質問ですが、適正配置案の中で一貫教育や複合化という文言がありますが、一貫教育は施設複合型のことになるのでしょうか。また、複合化とは具体的にどのようなことでしょうか。
【会長】	小中一貫教育には大きく3パターン（施設一体型、施設隣接型、施設分離型）あります。どの形をとるかは今後の検討課題かと思いますが、今よりも一貫教育をさらに進めるということを提案させていただきました。 複合化については、別紙「愛西市小中学校適正規模等基本計画（素案）」Ⅲの2（1）に記述がありますが、学校の近くに児童福祉施設、社会教育施設、社会福祉施設などを集め、年少者から高齢者までが連携や交流することができるというものです。
【委員】	今後は少子化が避けられないので（1案）を進めてほしいと思います。各案H33年の小学校のクラス数を見ると、（1案）は15学級、（2案）（3案）は11学級ですが、さらに将来へ進むとクラス数は減ることになるので、今後何度も適正化を図る必要をなくすために、思い切って（1案）を進める方が良いと思います。また、施設は新築ありきで考えるのではなく、財政の面で既存の施設を利用できないか検討する必要があります。 大規模な統合をするにあたり、地域の伝統文化に配慮することが問題になりますが、現在も地域ごとで子ども会や地元の方で行事を行っていますので、学校が統合されたとしても崩れることはないのではないかと思います。通学に関しては長距離になるので安全面に配慮して方法を考える必要があります。また、学童の問題は現在の学校で行うことで親の負担も減ると思います。
【会長】	他に意見はありますか。今の意見は前回の協議会で進めた意見ですが、今回のアンケート結果で立田・八開地区の方の意見を見ると、それぞれの地区での統廃合を検討する必要もあると思い、案を出させていただきました。
【委員】	立田・八開それぞれの地域で統廃合もあるかと思いますが、H33年の学級数を見ても6学級や9学級は少なすぎるので、さらに先の将来を見据えると大胆な統廃合が必要かと思います。 （1案）で進めると、施設としても立田中学校、八開中学校がそれぞれの地区にあるので、どちらかが小学校、どちらかが中学校ということも考えられます。 佐織、佐屋の近い部分と統廃合も考えられますが、やはり文化面で難しいの

	かなと思います。学校文化の面で引き継いで行くには立田と八開地区で統廃合を考える方が良いと思います。
【委員】	将来のことを考えると、（１案）で進める方がよいと思います。細かいところで統廃合して、数年後にまた同じ問題で検討するのは良くないので、統廃合するのであれば思い切って（１案）を進めるべきだと思います。 私も最初は立田だけ、八開だけで考えたらよいと思っていたが、Ｈ３３年の人数やクラス数を見ると、それぞれの地区で統廃合をしても、また検討しなければならなくなるので、やはり大胆に統廃合を進めるとよいと思います。
【委員】	一番子どもの数が減るのは八開地区なので、保護者の方も問題意識を持っています。人数が少ない方が穏やかに過ごせるという意見もありますが、幅広く他の人と接することは大切という意見が多いことを今回のアンケートから感じました。 また、アンケートには佐織と八開の統合という意見もあり、何年先を見据えるかによりますが、将来的には佐屋と立田、佐織と八開という統合も考えなければならぬのかなと思います。
【委員】	子どもの通学のことを考えると、立田と八開で統合するより、八開地区は佐織西と統合した方がよいのではと思いますが、人間関係を考えるとどちらが良いか判断しかねます。通学距離が近い方に通えるようにしてほしいです。
【会長】	前回の協議でもありましたが、現在の運用では、距離の規定に合い教育委員会の了承を経て近い学校に通うことはありますが、人数が少ない学校から距離の関係で近い学校に通えるようにすると、さらに人数が少なくなってしまう。現段階でも立田北部小では１クラス少なくなってしまったという事例もあります。距離だけで学校を選択するとクラス編成等の学校運営でも支障をきたしますので、距離の短い学校に通うことをすべて了承することは避けた方がよいと考えます。
【委員】	（１案）で進めてほしいと思います。八開地区は八開地区で横のつながりがあるので、文化の面でも八開の一部を佐織の学区に編入するのは避けたいと思います。統合するなら八開地区全体で立田に統合する方がスムーズに行くと思います。ただ、大規模に合併することで、学校が大きくなり先生の負担が増えるのではないかと心配しています。
【会長】	先ほどの意見の中にもありましたが、立田と佐屋の一部、八開と佐織の一部

	を統合という案についてどう思われますか。
【委員】	愛西市全体としての小中学校を考えると、立田・八開の縦長で統合するのはいかがかなと思います。結局旧町村のままで運営しているのと変わらないのではないのでしょうか。交流の面でも立田南部と開治の人が交流するのと、開治と西川端の人が交流するのは人の流れとしてどうなのかと考えるとき、やはり縦長の状態より横の方が良いのかなと思います。
【委員】	合併して 10 年以上経ちますが、今でもマチとムラで風土が違います。旧立田・八開の方と接する時と旧佐屋・佐織の方と接する時では違いがあります。子どもたちは柔軟に対応できるかもしれませんが、PTA等の親同士の付き合いが問題になるのではないかと思います。立田八開であれば風土が似ているので大丈夫でしょうが、八開と佐織ですと商業地帯と農村地帯で風土が違うので親の付き合いが困難なのかなと思います。
【会長】	市全体として考えると八開佐織の統合も考えた方がいいという意見と、地域コミュニティの問題や統合の調整を考えると難しいのではないかなという意見があります。 地域の成り立ちは土地改良等の様々な組織があり、それが動いているので、学校区だけで考えるのは難しいので、多方面で考えていく必要があります。 現在（1 案）で進めたらどうかという意見が多いように思いますが、施設の老朽化のことも触れますと、立南小の校舎は昭和 35 年築で、長期間の使用は難しいので、作り直さなければならない。すると建て直しても子供は減っていくという問題があります。 （2 案）（3 案）について意見はありますでしょうか。ここで、委員同士意見交換をしてその後意見を出していただく時間を作ります。
【会長】	ここで確認をしますが、アンケートでも通学路の距離や安全についての意見がたくさんありました。学校の統廃合をして通学距離が長くなる場合はスクールバスの導入することは可能であると思いますが、ここで事務局に確認をしたいと思います。
【事務局】	可能です。
【会長】	他の意見で福祉巡回バスを利用するという意見もありましたが。
【事務局】	福祉バスについては調整が必要です。

【会長】	それでは、スクールバスの運用は可能であるということで協議を進めますが、他の意見で小学校高学年からは通学に自転車を利用するものもありました。児童は学校から帰れば自転車で遊びに行ったりしているので、登下校にも利用したらどうかというものです。
【委員】	ただ、取り入れると集団での登下校ができなくなると思います。
【会長】	確かに、自転車通学を許可すると交通の危険度も増しリスクが増えるように思います。いずれにしてもスクールバスの導入は可能とのことですよ。
【委員】	スクールバスの基準で小学生4km中学生6kmというのがありましたが、天候の悪い日や伊吹おろしの中を北へ走っていくのは厳しいものがあると思います。
【会長】	国の基準は目安で「おおむね」という表現しております。平坦な地区と山間地域では同じに考えることはできませんし、気候の条件もあると思います。子どもにとって負担が大きい場合にスクールバスを使うというものです。
【委員】	（1案）の実現にあたって（3案）の段階を経るのはいかがでしょう。4つの小学校、2つの中学校をいきなり一緒にしてスタートするのは学校側も教育委員会も大変でしょうし、送り出す親も不安を覚えると思います。そこで、まず中学校を立田八開の中間地点に作る。次に、空いた各中学校の校舎へ立田八開それぞれの小学校が入る。最後に新設した中学校の近くに最終的な4校の統合小学校を作る。 やはり、小学校の保護者の方が不安に感じている部分が多いと思いますので、まず、中学校で前例を見せて安心させてから小学校の統合という段階を踏むとよいのではないのでしょうか。
【委員】	兄弟が3人4人いるような保護者は、中学校が統合され次に小学校が統合される過渡期にあると非常に不安を感じるのではないのでしょうか。中学校が統合された2・3年後に小学校ですと親の心配が増えるので、計画のスパンを10年20年という長いものにすれば心配の解消になるのではないのでしょうか。
【会長】	段階のスパンの長さの問題についてですが、確かにこの計画は1年2年でできるものではないですが、早いペースで中学校の統合、各小学校の統合そして4校の統合と進むと、子どもも環境になじめるか不安かと思います。そのため

	長くスパンをとって、子どもや保護者の状況を見つつ段階を進めていくという意見でした。
【委員】	人口の推移状況を見ると、あまり猶予がある状況ではないのかなと思います。すると、ある程度短いスパンで進める必要もあるのかなと思います。
【会長】	今の段階の意見をまとめますと、統合を進めるのであれば、第1段階で立田八開中を統合し、第2段階で各中学校の校舎にそれぞれの2小学校が入り、そして、人数の動向を見て統合した中学校に4小学校の統合校を併設する。それぞれの時期については、様子を見ながら進めるというもので、継続審議させていただきます。
【会長】	次第裏面③適正配置の推進の部分にも載せていますが、緊急性を考え段階的に実施するとして、例のうち立田八開をまたぐ場合には、まず中学校そして小学校としています。
【会長】	次の議題として（2）基本計画についてですが、事前に配布した資料に素案がありました。概要として提案させていただきました。 まず、「Ⅰはじめに」は計画を立てるにあたり、どのような背景があり、ポイントはどこにあるのかを記述するものです。 「Ⅱ学校の適正規模」は規模についての検討として、基本的な考えや基準を記述する。 「Ⅲ学校の適正配置」については通学条件も含めますが、こちらも検討にあたって念頭に置くものと、基本的な考えや基準を記述する。 「Ⅳ学校の適正配置計画」には、この協議会での結論を掲載する。 「Ⅴ適正配置を進める取組」については、計画を円滑に進めるための教育環境の整備に関する記述。地元説明会の開催、その後の地元代表者会や開校準備会の設置について記述します。 「Ⅵ廃止した学校施設について」は、使用しなくなった学校施設の活用について検討会を設置するものです。 「Ⅶおわりに」はその他配慮されるべき部分を記述するものです。 統廃合にあたっては、教育行財政制度の変化を注視することも大切ですが、何より、地域の皆様の総意を作り上げ、望ましい形の学校を作っていくことが大切であると思います。
【会長】	議題（3）協議会の今後の取り組みについてですが、次回第7回に基本計画（素案）の内容を検討し、第8回で教育委員会へ提案していきたいと思います。

	最後の議題（４）次回の開催日程についてです。 （次回日程の調整） それでは、次回協議会は平成２８年７月２７日（水）の午後２時からとさせていただきます。 これで「第６回愛西市立小中学校適正規模等検討協議会」を終了いたします。 長時間お疲れ様でした。
--	---